

しまね学習支援プログラム第3弾「地域魅力化プログラム」を活用したファシリテートの事例やファシリテーター養成講座修了者のみなさんのその後をお伝えしていきます。



「公民館職員8年目以上研修 (松江市公民館運営協議会) のファシリテート経験より」

朝酌公民館 主事 井上 美緒 さん

井上さんは、社会教育主事講習 [B] や東部社会教育研修センターにおける「ファシリテーター養成講座」「公民館等職員研修」で学ばれたことを活かしながら活動しておられます。そのような活動経験から令和2年度には松江市公民館運営協議会の研修企画チームから声をかけられ、「公民館職員 8年目以上研修」において研修内容の検討やファシリテートをしていただけることになりました。

●チームでファシリテート！

ー声をかけられたときはどんなお気持ちでしたかー

井上 今まで、朝酌地区の青少年育成協議事業を進めていくためのファシリテートはしたことがありませんでしたから、地域内でファシリテートをすることにはだんだんと自信が持てるようになってきている頃でした。しかし「8年目以上研修」の研修企画チームということで、当初不安はありましたが自分のスキルアップのために、思い切って挑戦してみようと思いました。

ーファシリテートに向けてどんな準備をされましたかー

井上 まずは、研修企画チームでしっかりとねらいの共有をしました。公民館の業務改善に向け、参加者同士で積極的な情報・意見交換をしてほしいと思い参加型学習を取り入れようと考えました。できるだけみなさんの声を多く聞きたいので、「フリップディスカッション」の手法を取り入れました。ワークショップの流れについては、チームで入念に打ち合わせしたあと、私はファシリテート用の読み原稿を作成しました。この原稿は、チームの皆さんに何回も添削をしていただきました。また、7グループへのファシリテートを予定していたので、各グループにサブファシリテーターのような役割をしてもらえる方に1名入っていただきました。読み原稿の作成に協力してくださったり、各グループの様子を見守っていただいたり、私がファシリテートしやすいように場作りをしてくださったチームの皆さんに感謝しています。

●参加される方をイメージしながら

ー当日のファシリテートはいかがでしたかー

井上 この「8年目研修」に参加される方は、私より職員経験年数がある方ばかりでした。研修当日、はじめの自己紹介は何を話そうか…と、特に考えました。「教える立場ではありません、みなさんから学ばせていただきます」ということを伝え、最後までその姿勢を大切にしながらファシリテートしました。参加者の皆さんにリラックスして話をしていただきたかったので「興味関心のあるところから話しはじめてくださいね」「話がテーマから脱線してもいいですよ」などという声かけをしてみました。また、問いに対する例の数や示すタイミングについては、話し合いの進捗状況を確認しながら示していききました。研修の前半は、ファシリテートのことで頭の中がいっぱいでしたが、途中からは「話をきかせてください」と言いながらグループの中に入って様子を伺わせていただくことにも努めていきました。

ーファシリテートを終えられてのお気持ちやその後の活動はいかがですかー

井上 とても緊張しましたが、皆さんが、市全体で業務改善をしていく必要性を感じていただけたことや、自分たちでできることを探そうとくださったことは大きな成果だと思いました。

令和3年度は、公民館主事の研修企画チームに参加しました。新規採用主事研修では企画を検討していく中で、私自身のその頃をふり返り、「こんなことやっておくといいよ!」と思いを是非伝えたいという気持ち膨らんできました。そこで、「相談する」「想いを伝える」「次につなげる」「技術を身につける」という4つのことを伝えさせていただきました。気付かれたことを今後の業務に少しでも活かしていただけると嬉しいです。研修内容を考えることもファシリテーターの役目のひとつですね。

これからも、ファシリテートできる機会があればどんどんチャレンジしていきたいと思っています。